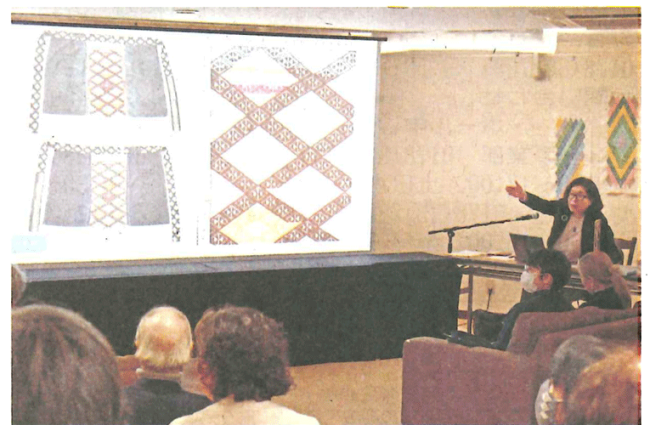


デーリー東北

2025年(令和7年)2月2日(日曜日) (9)

南部菱刺しの理解深め

八戸ペンクラブ新春講演会



南部菱刺しについて講演する川守田礼子さん(右奥)＝1月26日、八戸クリニック街かどミュージアム

八戸ペンクラブ(滝尻善英会長)は1月26日、八戸クリニック街かどミュージアムで新春講演会を開いた。同クラブ役員で八戸工業大教授の川守田礼子さんが「南部菱刺しについて」南部に眠るダイヤモンド」と題して講演し、約40人の聴衆は南部地方で受け継がれてきた工芸品への理解を深めた。

川守田さんは、津軽地方のこぎん刺しとの違いを解説。比較的自由度が高く、外へ広がるダイナミックな模様で個性を出すこぎん刺しと、規則的に積み上げた安定感のある模様で、内なる宇宙」にこだ

わって精密さで勝負する菱刺しは、それぞれの地域住民の気質にも似ている」と述べた。

「貧しい農村の物というネガティブなイメージで、忘れた文化とされたかもしれないが、貴重な布を可能な限り生かそうと工夫した人の思いを大事にしてもよいのでは」と語り、菱形を形容して「菱刺しはこの地域に眠っている『ダイヤモンド』。宝物であり、人の縁をつなぐものだ」と強調した。

講演会に先立ち、滝尻会長の八戸市文化賞受賞を祝う祝賀会も開かれた。(竹高雅人)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。